

◆ 第3回沼津市中心市街地まちづくり戦略会議

<p>会議次第</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 3 沼津市中心市街地まちづくり戦略会議について <ol style="list-style-type: none"> (1) 沼津市中心市街地まちづくり戦略会議のレビュー (2) 本日の検討内容について (3) 中心市街地まちづくり戦略の取組方針について (4) 今後のスケジュール 4 意見交換 5 閉会 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>委員の主な意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● まちなか居住を促進するにあたり、暮らし方や働き方等のライフスタイルをふまえて中心市街地が本当に住みやすくなるのか、具体的に示す必要がある。 ● この15年間で中心市街地に複数のマンションが立地している。新たに中心市街地に住み始めた人達による現状評価やニーズ把握の調査を行うことで、中心市街地の課題や求められる機能が見えてくるため、調査の実施について検討するとよい。 ● スポンジ化への対応については、公共空間や交通体系の再編等の効果が染み出すことで、スポンジ化しているところに機能がはりつき、スポンジ化が解消されていくと思う。スポンジ化対策と道路空間再配分を掛け算で取り組んでいく必要があり、例えば、駐車場の広場化とあわせて道路空間再配分等の社会実験を行い、相乗効果について検証するとよい。 ● まちなみ形成のルール化について、建物を立地する際、建物と公共空間が一体となった空間を創出する場合、地区レベルで詳細なルールを決めるのではなく、景観計画等に基づく緩やかな誘導もあり得るのでは。 ● まちづくり戦略を具現化していくためには、早い段階で見える化して機運を高め、民間投資を呼び込むことが重要である。また、官民連携の体制づくりが必要である。 ● ロードマップに示された取組を実現するための実施体制の枠組みを検討する必要がある。 ● 短期と長期の取組イメージは明確であるが、中期の取組について検討を深めたい。中期に設置される仮設南北自由通路について、整備時期や使い勝手、駅周辺の状態等について共有する必要がある。中期の取組イメージを高めるために前提条件を改めて整理するとよい。 ● UR 都市機構の土地取得により、駅前広場の検討の幅が広がったが、駅周辺だけでなく周辺地域との連携等をふまえ、弾みがつくシナリオが描けるとよい。